

襷をつなぐことの誇り

10月17日(金)第43回鳥取県中学校駅伝大会が開催されました。今年度も男女とも東部地区大会を勝ち上がり出場することができました。少ない部員ではありましたが、その分1人1人のがんばりが実を結び、価値ある結果となったのだと思います。

3年間駅伝部で活躍をつづけた保木本君。3年間を振り返り想いを綴ってくれました。ここに書かれてある言葉は駅伝への想いとどまらず、ここまでつづけることができた周りのサポートへの感謝の言葉でもあります。仲間につなぐ襷。先輩から後輩へと受けつながられる襷。ぜひみなさんにも彼の言葉を通して自分を見つめてほしいと思います。

僕は、これまで毎年駅伝部を続けてきた。その中でも今年の駅伝部の人々には言葉では言えないほどの感謝をしたい。

1, 2年までの鳥大附中駅伝部は、毎年県駅伝の常連校として優勝争いをしていて、強い先輩方がいてその中で僕はその順位を落とさず、維持することが使命だったが、今年はキャプテンとして決して強いとは言えないこのチームの順位を何としてでも上げなければならない、という使命で戦った。

今年のチームは男子8人、女子6人の計14人というとても少ない状況でスタートをした。最初の頃は陸上部以外の人たちは長い距離を走ることによって精一杯という中で僕は、県まで駅伝を続けられるかとても心配だった。でも、きつい練習が続く駅伝を部員たちは怠らず堪えて必死に頑張ってくれた。そのがんばりがあったからこそ皆は成長し、本番の大舞台で躍動してくれたと思う。心から感謝したい。

東部駅伝では、県へのプレッシャーが大きいのしかかってきた。それでも皆前をひたむきに追い続け男女ともに県への出場権を獲得した。皆がその時できる最高の走りをしていった。

そこから県への練習がまた始まった。皆練習をするたびに強くなっていった。そして駅伝前日の最後の練習までたどり着いた。最後の1000メートルTTと終了後の円陣は一生忘れられることはないだろう。皆は笑顔だった。チームが家族のように感じられた。負けてもいいんだ、やっやるぞ、そう皆からの心の声が聞こえたように思えて僕はとても感慨深かった。

そして県駅伝では、今年の駅伝の集大成といえる最高の走りをしていった。皆の走りを見て1人1人の思いが強く伝わってきた。それは、駅伝をやってきたからこそ分かる強い思いだった。とても感動した。

今年の駅伝で襷をつなぐことがどれだけ楽しいか、そしてキャプテンという立場がどれだけ大切かよくわかった。それらを伝えてくれたのは、部員の人たちのおかげだ。本当にありがとう。そして三年生の駅伝部メンバーたちは未熟なぼくをここまで育ててくれてありがとう。今年の駅伝部はかけがえのない宝物だ。

今週の予定

11月14日(火)	新研究【数学】	進路説明会【保護者対象】
11月15日(水)	新研究【理科】	
11月16日(木)	新研究【英語】	個別相談、いのちからだいきる 教育、中間テスト範囲表配布 推薦受検受付開始、県外受検申込開始
11月17日(金)	新研究【国語】	個別相談
11月20日(月)	新研究【社会】	個別相談